

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590200253		
法人名	社会福祉法人 神原苑		
事業所名	神原苑 東新川グループホーム		
所在地	山口県宇部市東新川町6番10号		
自己評価作成日	令和3年4月28日	評価結果市町受理日	令和3年8月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年5月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が楽しく元気に過ごして頂けるように、地域行事への参加、事業所内のレクリエーションの充実などに取り組んでいます。特別養護老人ホームで開催される法人の行事に参加したり、併設の小規模多機能型事業所と合同で行事を行うなど法人内の他事業所の利用者・職員との交流が持てるようにもしています。
今年度はコロナ対策として、今まで行っていた地域行事への参加やボランティアの受入れ、法人内の他事業所との交流など出来なくなったことが沢山ありましたが、その分事業所内で楽しく過ごして頂けるよう工夫を凝らして援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナ対策としての外出や面会の制限、行事の中止などで、地域との交流が困難となった状況の中で、職員の提案から、夏祭りやユニット対抗のゲームなど事業所内での行事を充実させたり、外食の楽しみの代わりにデリバリー料理を楽しまれるなど、職員がチームワーク良く工夫されて、楽しい支援に取組まれ、利用者の笑顔を誘ってられます。職員は、担当する利用者の状態を把握され、個々に応じた対応や継続的なケアで、利用者の日常生活の維持に尽くされています。自分にできることに積極的に取組まれるチームワークの良さは、新人職員が職場に早く馴染むことにもつながっています。毎月の内部研修の開催に加えて、看護師によるミニ研修で、応急処置、骨折、急変時の対応、利用者の状態に合わせた内容などを学ぶ機会をつくられて、資質の向上に努められたり、運営推進会議に家族の参加を得られるなど、目標達成計画を活かして、利用者の安全と家族の安心に取組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階のスタッフ室前の掲示板に理念を掲げている。毎月行われる職員会議で理念への理解を深める機会を設けている。	法人の理念に添って、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の会議で理念の読み合わせをし、職員間で確認し実践につなげている。新型コロナウイルス感染防止のため、面会をガラス越しにしたり、面会エリアを設ける、職員は県外に外出しないようするなどの対策に努め、利用者が安心・安全・安定した生活が送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春の道普請はコロナ対策で中止となった。秋は実施されたがコロナ対策として、集合場所には行かずに事業所周辺の清掃を行ったが、見回りの地域の方が声を掛けて下さる。2月末の校区のひな祭り行事には利用者と一緒で作成した作品を出品、センター職員と連携し空いた時に連絡してもらい6名の利用者をお連れしお雛様を見て回った。	自治会に加入し、市の広報紙や自治会だよりの配布がある。地域の清掃活動はコロナ禍により秋のみの実施となったが、事業所周辺の清掃を利用者と職員が一緒に行っている。ボランティアの来訪や文化祭などの地域行事、住民が参加する事業所の行事(文化祭、クリスマス会、餅つき)は、中止または事業所のみでの開催となっているが、校区のひな祭りに利用者と一緒で作った作品を出品し、利用者と職員が一緒に見学に行っている。地区の自治会館での神原26区にこここサロンや、ふれあいセンターでの神原いきいきサロンに職員が出向き、ボランティアと共に、市の出前講座を利用しコロナウイルス、がん予防など日頃の生活に役立つ講座を行い、参加者からの相談を受けたり認知症のある参加者の状態を確認するなどして、地域の人との関係づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、外部講師を招き地域に向けて認知症の研修会を小規模多機能型事業所と合同で行っているが本年度はコロナ対策で見送った。コロナが落ち着いた後に再開する予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を記入し振り返りを行う事で出来ている事、不足している事を把握・理解し今後の支援に繋げていく。	管理者は、月1回の職員会議で評価の意義を説明し、全職員に評価のための書類を配布して、職員が記入できる項目に記入後、ユニット毎に話し合い、管理者がまとめている。前回の外部評価を受け、応急手当や初期対応の訓練定期的な訓練の実施を目標達成計画に掲げて、月1回の内部研修時に毎回ミニ看護研修を行うよう改善したり、運営推進会議のメンバーとして、新たに家族の参加を得るなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策として市より開催方法について検討するよう指示がある。今年度は6回全て書面開催とし委員さんに資料送付を行った。	家族会に参加を呼びかけ、新たに2家族3人のメンバーを得ている。会議は法人他事業所と合同で、2ヶ月に1回実施しているが、この1年はいずれも書面開催としている。新たにメンバーとなった家族にも書類を送付し、事業所の現状、サービス内容、事故ヒヤリハット報告、コロナウィルス感染拡大防止の対応などについて報告している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当部署や生活支援課、地域包括支援センターと連絡・連携をとり、助言・意見を頂いている。 いきいきサロンや各行事を通し校区ふれあいセンターの方を始め市の職員の方と協力関係を築くようにしている。	市担当者とは、電話やメールで連絡し、助言や指導を得たり、行事等を通して連携し、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、いきいきサロンの開催などで、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、それに準じて取り組み・対応をしている。	運営推進会議で身体拘束適正化委員会を開催している。「身体拘束マニュアル」があり、年2回内部研修で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。状況に応じて玄関の施錠はしているが、外出したい利用者があれば、職員と一緒に出かけたり、気分転換の支援をしている。スピーチロックについて気になるころがあれば、管理者が指導したり、職員同士で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて虐待身体拘束チェック表を用いて各自がチェックを行い自分の行動が正しいか確認を行った。 日々利用者の様子、表情、身体等を常に確認し未然に防止出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を利用された方がおられた為、支援を行っていたが今年度退苑された。成年後見人制度も以前利用されていた方がおられたが現在は利用していない。今年度利用があれば支援を行う。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書にて詳しく説明を行い、同意を得ている。 解約については契約時に説明を行っているが、必要に応じ随時説明を行い、解約時にも再度説明を行いご理解頂けるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付マニュアルを作成している。入苑時には苦情の窓口について説明も行っている。 苦情・相談の意見箱を玄関に設置しご家族が直接言いづらい時でも苦情を受け付けられる環境にしている。 また苦情があった際には有識者をメンバーに含めた高齢者住宅サービス要望・苦情委員会を開催し解決に向けて取り組む体制がある。 苦情についても運営推進会議で報告し意見を頂ける体制にしている。	契約時に家族に相談や苦情の受付体制や処理手続きについて説明している。玄関に意見箱を設置している。年4回の事業所だよりや月1回のサービス提供報告書で本人の様子を伝え、電話や面会時に話を聞く時間を作るように配慮して、家族が意見や要望を出しやすくなるよう工夫している。運営推進会議のメンバーとして参加を得るなど、意見や要望を表せる機会を設けるように取組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階のユニット会議や職員会議で意見や提案を聞く機会を設け職員で検討し反映するようにしている。 また会議以外でも意見が言い易い雰囲気にするよう努めている。	月1回のユニット会議や月1回の職員会議で意見や提案を聞いている。管理者は日頃から意見が言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員の意見や提案から、コロナ対策として安全に面会を行える面会エリアの整備をしたり、外出できない利用者のため、事業所内のレクリエーションの充実に取り組むなど、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境になるよう可能な限り対応している。また資格取得や外部研修の参加を促しスキルアップできるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が講師となり毎月事業所内の研修を行っている。非常勤職員も参加しやすいように日中行うように設定している。隔月で行われる法人内の全体研修にも参加している。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。この1年では市の虐待防止研修を受講している。法人研修は年4回実施し、事業所からは「自主防災活動」に2名、「緊急時の対応」に2名、「ストレッチ」に2名参加している。参加者は資料を回覧し、情報を共有している。管理者や看護師、研修委員が講師となって、月1回内部研修を行い、緊急時の対応、便秘、接遇、食中毒、身体拘束、感染症、認知症、防災、排泄機能維持、災害発生対応マニュアルなどについて学んでいる。看護ミニ研修では、便秘、骨折、熱中症、救急処置、転倒時の対応、リハビリテーション、コロナウイルス、皮膚トラブルなどについて学んでいる。資格取得の支援をしている。新人研修はコロナ禍の影響で法人の新人研修は中止し、事業所内で管理者や先輩職員が働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ対応として交流する機会が持てていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み後面談を行っている。ご本人から不安なことや希望等を聞き取るようにしている。また聞き取り内容をケアプランに反映するようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・面談・契約時にできるだけ時間を長くとりゆっくりとお話しご家族の方の不安が軽減できるようにしている。話しやすい、相談しやすい雰囲気を作りご家族の気持ちに寄り添えるよう努めている。場合によってはご自宅に伺い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご様子やお困りごとを伺い、その方にとって他のサービスが適切と思われる際には他のサービスについてお話させていただいている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来ることに目を向け、利用者が出来ることは大いに力を発揮して頂き、やりがいのある役割を持った生活が送れるようように援助している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日のご様子について担当者が報告書を作成・送付しご家族と情報が共有出来るように努めている。面会時や電話の際にもお話をさせてもらっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常、ご家族・知人の面会やご家族との外出などの支援を行っているが、本年度はコロナ対策の為に状況に応じ制限を設けて対応している。	家族の面会や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、電話や手紙などでの交流を支援している。 コロナ禍で面会等が制限されているが、ステージに合わせてパーティーションの活用、距離の確保、ガラス越しでの面会など、随時変更しながら少しでも顔を見たり、声が聞けるように工夫している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、午前・午後各ユニットで全員で集まってレクを行っており利用者が声を掛け合ったりコミュニケーションを取れるよう支援している。また仲の良い利用者同士と一緒に活動が行えるように配慮している。 新入苑の際は席を検討し早く他の利用者との関係が作れるよう援助している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい事業所、入院先に情報を提供しその方の生活がスムーズに移行出来るように支援している。 コロナ過でお見舞いが難しい為に地域連携室担当者と連携し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族からの聞き取りを行い希望・意見を把握するように努めている。ご本人の言葉で記録することで思いを理解できるようにしている。	入居時の基本情報(本人や家族の希望、困りごと、趣味、食事、好き嫌い等)を活用している。日々の関わりの中での本人の言葉や様子、気づいたことなどをケース記録に記録し、申し送り等で職員間で話し合い、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ご本人からお話を伺い理解するように努めている。法人のヘルパー・デイサービス等を利用されていた方については事業所から情報をより詳しく収集し状況をより深く把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や状態について記録、口頭で申し送るなどし職員が把握できるようにしている。 ユニット会議で情報の共有化を行い他ユニットについては議事録を回覧し把握するようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族・ご本人から要望を聞き取り、介護支援専門員・看護師・計画作成担当者を中心に作成している。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となって、月1回のユニット会議時にカンファレンスを開催し、記録は全職員に回覧して各ユニットの情報を共有している。利用者や家族の意向や、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者や家族の状態や要望に変化があれば、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに日々の様子を記録し、また各階で連絡ノートを作成し情報が共有できるようにしている。 ユニット会議・職員会議でも情報の共有化を図り、介護計画の見直しに役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方におられ対応が難しいご家族については職員で衣類等の買い物や退苑の対応など支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は毎月色々なボランティアに来て頂き一緒に楽しんでいるが今年度はコロナ対策で全て中止とした。 コロナが落ち着いたら再開する。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入苑前のかかりつけ医を主治医として職員・ご家族で受診の対応をしている。状態の変化があれば看護師を中心に主治医に連携をとり適切な医療を受けられるように援助している。 また、認知症の進行に応じ専門医への受診をご家族に提案させて頂き納得が得ればスムーズにかかりつけ医が移行できるように支援している。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、受診は事業所が支援している。他科受診は希望に応じて、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は面会時や電話で家族に伝える他、「サービス提供報告書」送付時に伝えている。職員間ではケース記録や日誌、申し送りで情報を共有している。夜間や緊急時には看護師の指示を受けて、かかりつけ医や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を職員として配置している。利用者の不調時は随時看護師に報告し、看護師が初見し主治医の指示を仰ぐ体制を作っており現在スムーズに受診が行えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早急に情報が提供出来るように対応している。 入院中も情報交換を行い必要に応じ関係箇所連絡を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族のご意向を伺い、主治医と連携しその方に一番望ましい支援が出来るように努めている。	「利用者の重度化した場合における対応にかかる指針」に基づいて、契約時に事業所で出来る対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医の意見を参考にして、管理者、看護師、利用者を担当する職員が相談し、関係書が話し合っ方針を決め、共有してチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故が起こった場合は事故報告書・ヒヤリハット報告書を作成し職員全体で事故の原因・対処策が共有できるように回覧を行っている。 また在宅部門で開催される事故検討委員会において他部署の意見をもらっている。毎月看護師によるミニ研修を行いスキルアップを図り、緊急時に対策できるように努めている。	事例が生じた場合は、事故報告書やヒヤリハット報告書に、管理者や看護師、その日の職員で、発生時の状況、原因、対応方法を記録し、全職員に回覧している。法人の事故検討委員会の意見をj得て話し合いをし、月1回のユニット会議で再検討して、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。職員は内部研修で 緊急時の対応、食中毒、感染症などについて学び、毎月の看護師によるミニ研修で骨折、急変時の対応などについて繰り返し学んで、応急手当や初期対応の実践力が身につくよう取り組んでいるが、全職員において十分とはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者が防火管理者として防災・避難訓練を行っている。毎回対応方法を変更しどの程度で避難できるかを確認・問題点を抽出している。 3月実施時は夜勤入り以外の職員を全員出勤とし2階の利用者を外階段で避難する訓練を実施した。	年1回、昼間の火災を想定した消防避難訓練を利用者も参加して実施すると共に、年1回併設事業所と合同で、職員会議、研修後に、全職員で避難階段を使った避難訓練と、水消火器での消火訓練を行っている。法人研修で事業所の研修委員が自主防災活動について学び、内部研修で「防災」について検討して「グループホーム災害発生対応マニュアル」を作成している。この1年はコロナ対策もあり、地域との協力は出来ていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時などは特にプライバシーに配慮して対応している。その方にあった声掛けを行うように努めている。 個人情報の保護についても留意して対応している。	職員は内部研修で、「接遇マナーのチェックシート」を使って出来ているところと出来ていないところを確認するなど、接遇について学び、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところは管理者が指導している。 個人情報の保護についても留意し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と日頃から良好な関係作り、利用者が思いを伝えたり自己決定出来るように努めている。また聞き取った要望は実行できるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内での1日のスケジュールは決まっているが、全員で活動する時間以外は本人ペースで過ごせるように対応している。 起床時間・入浴時間は出来る範囲内で希望に沿うように対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時身だしなみを整える援助を行っている。服装についても季節感にあったものを着れるように援助している。ご家族に洋服の持参を依頼したり、ご家族が遠方で対応が困難な方についてはその方の好きな洋服を購入しおしゃれが楽しめるようにしている。出張散髪に来てもらい散髪の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は調理センターで行い事業所では朝食の味噌汁作り、炊飯のみ行っている。咀嚼状態等により刻み食・ミキサー食での対応を行っている。 盛り付けや野菜のカットをお願いすることもある。リクエストに応じて定期的に外食・外注も行っているが今年度は外食は中止し行事の際は外注とした。 昼食レクを定期的に行い日頃提供出来ない物を一緒に作っている。	副食は三食とも法人の配食を利用し、一人ひとりの状態に応じた形状の工夫をして提供している。ご飯と朝の味噌汁は事業所でつくっている。利用者は野菜のカットや台拭き、お盆拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。行事食(お花見弁当、ちらし寿司)や昼食レク(たこ焼き)、外注の冷やし中華、ハンバーガー、おでん、ピザ、おやつレク(ベビーカステラ、かき氷、梅ヶ枝餅、サツマイモバター、、蒸しパン)で、レクリエーションを兼ねて、食事を楽しくめるように支援している。この1年は、外食ができなかったため、デリバリーを利用するなど工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によって管理された食事を提供、水分量も記録し翌月栄養士に報告している。居室で水分を摂取される方については毎日容器を洗浄、お茶を提供している。 おやつもその方に合わせ他者と変更するなど配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前には口腔体操を行っている。食後に声掛け、一部・全介助し歯磨きを行ってもらっている。歯磨き粉や歯ブラシの購入、コップの消毒など援助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの訴えの無い方については定期的にトイレの声掛けを行いトイレでの排泄を援助している。必要に応じてリハビリパンツやパッドを使用して頂き不快感の軽減を図っている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し排便状況の確認を行っている。トイレでの排便の確認が難しい利用者については本人から確認、入浴時に腹部の確認を行い把握するようにしている。 牛乳を提供したり、主治医に相談を行うなどの援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	人員配置や受診等の関係もあり、安全に入浴を行う為に入浴時間を限定しないといけないこともあるが、可能な限り希望に沿った援助が出来るように心掛けている。脱衣所の温度や湯の温度などにも気を配り気持ちよく入浴して頂けるようにしている。	入浴は日曜日を除く毎日、10時から11時30分と14時から15時までの間可能で、利用者の希望に合わせて、2日に1回はゆっくりと入浴できるように支援している。季節のゆず湯や入浴剤の使用、職員との昔の話などの会話で入浴を楽しんでいる。利用者の体調や症状(皮膚疾患など)に合わせて、毎日のシャワー浴や足浴、清拭などの支援をしている。入浴したくない人には無理強いしないで、言葉かけの工夫や順番を変えて促すなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中希望に沿って休息が取れるように援助している。お部屋の温度や照明などに気を配り、また布団や毛布・枕など好みにあったものを持参して頂き快適に眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が内服薬の内容を確認し薬のケースに配薬している。利用者への配薬は看護・介護職が行うが名前の確認等再度確認を行い介助している。 薬情報のファイルを作成し各階統一した場所に置き、誰でも薬の情報を知る事が出来る環境を整えている。利用者の状況が変化した際には看護師・管理者に報告し主治医に相談を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事を把握し、その方にあった脳トレや作業を提供している。目が見えずらい利用者も行えるよう字の大きい脳トレの作成やレクを行い皆さんと一緒に出来るように援助している。	この1年はボランティアの来訪はなかったが、事業所内で季節の行事(豆まき、ひな祭り、端午の節句、七夕、夏祭り、スイカ割り、敬老会、クリスマス会)や誕生日会、昼食レク、おやつレクなどで楽しめるように取り組んでいる。テレビやDVDの視聴、新聞や週刊誌を読む、音楽療法、大正琴、歌を歌う、習字、ぬり絵、縫い物、お手玉、カルタ、トランプ、福笑い、ラジオ体操、音楽体操、リハビリ体操、脳トレーニング、計算ドリル、風船バレー、黒髭危機一髪、金魚すくい(紙製)、棒サッカー、伝言ゲーム、缶積み、布団たたみ、枕カバーや布団カバーの交換、洗濯物たたみ、食事の準備や片付け、お茶配り、家庭菜園の植付や水やり、草取り、自治会の清掃(道普請)など、楽しみごとや活躍できる場面作りをして、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策として外出が難しく希望に添えていない。 人との接触を避け施設周辺の散歩については徐々に再開した。3月末には1年ぶりに車で花見に外出レクも行った。	新型コロナ感染予防対策として外出、外食の支援や家族との外出などは制限されているが、対策を講じながら地域の道普請やふれあいセンターのおひな様祭り、ドライブでの花見、バラ見物、事業所周辺の散歩などに出かけている。中庭の家庭菜園でナスやキュウリ、トマト、オクラを植え、水やりや草取り、収穫をして外気に触れている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者やご家族の希望があればお金の管理はご本人で行って頂き、外出時お買い物をされることも出来る。お金を置き忘れる、しまいこんで分からなくなるなどが続けばご相談の上で職員管理とさせていただきます。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話があればご本人に取次ぎ、ゆっくりお話が出来るように援助し、職員は遠くで見守りご家族と周りを気にせずお話出来るようにしている。 電話の使い方が分からない利用者については側で援助しお話が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節にあった作品飾り(利用者で作成)、テーブルには季節の花を飾る機会を作り、季節感を感じて頂けるように援助している。 また空調管理を行い快適に過ごせるように支援している。	玄関には季節毎の飾りを飾っている。リビングダイニングには、窓から自然の光が入り、明るく広々としている。食卓テーブルや椅子、テレビの前にはソファを配置し、利用者がゆっくりとくつろげるように工夫している。壁には、カレンダーや行事の写真、季節の手づくり作品を飾り、季節を感じることができる。温度や湿度、換気、消毒に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と一緒に過ごせるように席を配慮したり、ゆっくり過ごせるようにソファに誘導している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入苑時お気に入りの物や、馴染みの物の持参をご家族に促しており、持参された際はお部屋で飾ったり使って頂けるように支援している。 お孫さん・ひ孫さんの写真、ご家族からのお手紙、好みのカレンダーをお部屋に飾り居心地よく生活して頂けるよう支援している。	箆笥、テレビ、衣装ケース、籐椅子、藤の棚、仏壇、時計、鏡台、小机、椅子、ゴミ箱、日用品、化粧品、ぬいぐるみなどを持ち込み、姫だるま、造花、孫や家族の写真、プロマイド、誕生日の色紙などを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに大きなプレートを付け、トイレの場所がどこからでも分かりやすくしている。 居室のドアにはネームプレートをつけているが分かりづらい利用者についてはドアに個別に飾りを付け視覚で理解できるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 神原苑東新川グループホーム

作成日: 令和 3 年 8 月 25 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につくよう取り組んでいるが、全職員において十分とはいえない	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の事業所内職員研修の際に、初期対応・応急手当について看護職員による10分程度のミニ研修を今年度も継続して行う。 ・新入苑の利用者の状態に合わせた研修の実施。 ・消防に依頼し実際に救急の訓練を行う。(AEDの使用方法、心肺蘇生の方法) ・身につけているか個別に確認する。 	12ヶ月
2	36	災害時地域との協力体制を築くまでには至っていない。 ここ1年はコロナ対策もあり、地域との協力は出来ていない	地域との協力体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策をとり地域の行事に参加、宅老所の利用者を含め、地域の方々と関係を強くするようにしていく。 ・自治会長に運営推進会議等で現状についてお知らせし協力を仰げるようにする。 	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。